



熊本県

YATSUSHIRO CITY

八代市

しあわせあふれる
ひと・ものの交流拠点都市”やつしろ”



八代市は熊本県の南部に位置し、面積約681km²の市域を有しています。東は宮崎県に接し、西は八代海を隔てて天草諸島を望みます。

日本三急流の一つである球磨川の河口に位置する八代平野は、球磨川などから流下した土砂の堆積によりできた土地と、藩政時代から行われてきた干拓事業による土地によって形成されています。河川がもたらす豊富で良質な水の恩恵を受け、全国有数の農産物の生産地、熊本県内有数の工業都市として発展を続けてきました。

現在は、豊かな自然のもと生産物を活用し、6次産業化・農商工連携を進め、高付加価値化に取り組んでいます。

また、八代港を利用し、アジア・首都圏との流通拡大を目指すとともに、担い手などの人材育成強化にも力を入れています。



龍峯山から見た八代市街地



五家荘(梅ノ木轟公園吊橋)



日奈久温泉の今と昔を巡る



昔の日奈久温泉（本湯）



現在の日奈久温泉センター
ばんぺい湯



晩白柚

八代市を代表する果物です。最大のものはギネスブックに登録されています。世界最大級の柑橘類で、さわやかな香りが特徴です。

今なお、薩摩街道の面影を残す日奈久地域は開湯600年の歴史を誇る湯の町です。

古くは細川藩の藩営の湯として栄えていました。現在も趣のある路地裏が残っており、ゆつたりとした時を刻んでいます。

日奈久温泉を愛した放浪の俳人・種田山頭火が訪れたことを記念し、毎年9月に「九月は日奈久で山頭火」の催しが行われています。また、冬季には八代の特産である香り高い晩白柚を湯船に浮かべる晩白柚風呂が名物です。

かつては、日奈久温泉駅と温泉街を結ぶ乗合馬車が旅館街を走る姿も見られました。（写真上）

今年（九月は日奈久で山頭火）20年目の記念の年です。日奈久温泉にてバスツアー、シンポジウム、句会等様々な催しものを実施しますので、ぜひ日奈久温泉にお立ち寄り下さい。



おりや

1930年(昭和5年)9月、種田山頭火が宿泊した宿として、全国で唯一現存する木質宿。内部の見学が可能。



日奈久路地（なまこ壁）



旅館「金波楼」国・登録有形文化財



山頭火ウォーク



昨年の花火

花火師の技に酔いしれる

毎年 10月の第3土曜日に開催されている「やつしろ全国花火競技大会」。西日本で開催される唯一の全国花火競技大会で、花火師たちがその技を競い合います。大会当日は花火セミナーや地元の物産展

なども開催され、多くの人で賑わいます。今年は1万4千発の花火が打ち上げ予定です。花火を間近で見られる特別な有料観覧席もあり、毎年人気を博しています。

受け継がれた伝統を見て、触れて、感じる

八代妙見祭の神幸行事

八代妙見祭は、宮地地区にある妙見宮（八代神社）の秋の大祭で、江戸時代から続く熊本県を代表する秋の祭礼行事です。11月22日に神幸行列（お下り）、御夜、23日に神幸行列（お上り）が行われ、獅子や笠鉾、亀蛇・花奴、木馬、飾馬など江戸時代から受け継がれてきた伝統ある出し物が数多く、絢爛豪華な時代絵巻として観るものを魅了します。

2015年（平成27年）3月、ユネスコ無形文化遺産の候補として国連教育科学文化機関（ユネスコ）に一括提案されましたが、2016年（平成28年）12月1日ついに日本の「山・鉾・屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に登録決定しました！
八代、日本の宝から世界の宝となった八代妙見祭、是非一度異国情緒あふれる雰囲気味わいに来て下さい。



回転する亀蛇（妙見祭）



笠鉾勢揃い（妙見祭）



球磨川でのラフティング（坂本町）



鮎

球磨川の 清流を 肌で感じる

日本三急流の球磨川は、ラフティングファンの人気のスポットとなっています。

急流の間には流れが穏やかなポイントもあり、スリル満点の激流川下りと、巨大岩からのダイブなどの川遊びの両方ができます。

また、リバーボードを体験できるのは、九州で唯一、八代だけです。

大自然を満喫しながら冒険を楽しめる川遊びとして人気です。



鮎の塩焼き

球磨川の恵みを食す

球磨川で獲れた天然の鮎を、塩焼き、煮付け、唐揚げなどで食べることができる食事処も人気の観光スポット。球磨川沿いの店内からはその姿を臨むことができます。

清流球磨川を眺めながら、その幸を楽しむ。川のせせらぎの音を聞きながら食べる鮎料理は格別です。雄大な自然の中で、絶品料理をお楽しみください。



「食処さかもと鮎やな」の鮎やな定食

世界に向けた観光と経済



クイーンエリザベス



クァンタム・オブ・ザ・シーズ



MSCスプレンドィダ

訪日外国人観光客が増加する中、八代市においてもクルーズ船の寄港増に伴う旅行者が急増しています。このような現状を踏まえ、八代市の観光地としての魅力を活かし、インバウンド需要の取り込みを推進しています。

寄港時のおもてなしや乗組員との相互交流、船社や旅行代理店への訪問活動を行うなど、外国クルーズ船の寄港増に向けた取り組みを行っています。

また、周遊バスの運行や多言語パンフレット、通訳ガイド、WiFi環境の整備など、訪日外国人観光客がストレスを感じることがないよう、環境を整えていきます。

今後は、コンテナヤードや国際旅

客船拠点形成港湾の指定に伴う、岸壁などの整備が予定されており、物流・人流の両面における港湾機能の充実により、港の魅力発信と国際競争力の高まりが期待されています。

また、来年には国際クルーズ拠点の運用が開始予定であり、八代港の更なる機能充実に向けて動いています。

6月26日には八代港外港地区で岸壁の新設に伴うジャケット据え付け工事があり、クルーズ拠点完成に向けて着々と整備が進められています。

さらに公園も整備予定であり、間近で豪華客船を眺めることが出来るスポットになる予定です。